

「ボーン・クリエイティヴ」、略して「ボンクリ」。

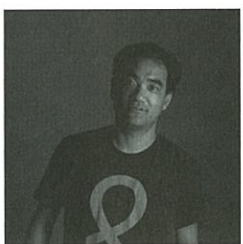
これは、「人間は皆、生まれつきクリエイティヴだ」という意味。

数年前から僕がやっている福島県相馬市での作曲教室では、5歳から高校生までを対象に世界から現代音楽のエキスパートの演奏家を迎えて特殊技法等をみっちり紹介し、その場で子供達が新しい音楽（現代音楽と呼ぶ人も多いかも知れない）の作曲をする。しかもすべての音や指示を楽譜にきちんと記し、自分の作曲した作品をその場でプロの演奏家に演奏してもらう。子供達が作曲中、演奏家は子供達が作品の一部を確認したり、コラボレーションし、アイデアを楽譜にするために待機し、直ぐに試演できるスペシャルな環境を作っている。

この作曲教室を何年か継続していてわかったことは、全ての人間は子供の頃、「新しい音楽」「新しい音」、そして5歳の子供の言葉を借りると「変な音」が好きだったということだ。

なぜかそのクリエイティヴィティは成長するにつれ、失われていく。

この「ボンクリ」は、大人になっても 5 歳の子供のままクリエイティヴでいる人達の作品を、0 歳の子供から大人まで楽しめる新しい音楽に触れるためのイベント。演奏家と共に参加し、一緒に音楽を作るワークショップもあり、即興音楽もあり、日本の伝統音楽である雅楽も、エレクトロニクス（電子音楽）も、現代音楽アンサンブルもあり、ペルー音楽も、オーケストラ作品もある。丸1日、東京芸術劇場館内に「新しい音楽」が満ち溢れる。一生分、少なくとも 1 年分の“世界中の新しい響き”を堪能することができるまたとない機会。5 月 4 日は是非芸術へ！



Photo：Seiji Okumiya

参加アーティスト

アンサンブル・ノマド(現代音楽アンサンブル) 1997 年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。[NOMAD] (遊牧、漂流) の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されている。	 ©MakiTakagi
伶楽舎(雅楽アンサンブル) 雅楽の合奏研究を目的に 1985 年に発足。音楽監督・芝祐靖。発足以来、現行の雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や現代作品の演奏にも積極的に取り組み、幅広い活動が続けている。CD『秋庭歌一具』は芸術祭レコード部門優秀賞受賞。解説を交えた親しみやすいコンサートを企画し、雅楽への理解と普及にも努め、小中高校生を対象としたワークショップ、レクチャーコンサートなども多く行っている。	 Photo：David Michalek
クレア・チェイス(フルート) ニューヨーク・タイムズで「行き過ぎとも言いうるテクニック、幅広いスタイルと鋭い音楽性の持ち主」と賞賛され、現在最も革新的なフルート奏者として注目を集めている。過去 10 年で 100 曲以上の新曲を世界初演しており、その大半は彼女のために作曲されたもの。2001 年にはインターナショナル・コンテンポラリー・アンサンブル(ICE)を設立。これまでに 500 以上の演奏会をプロデュースしている。	 Photo：David Michalek

ヤン・バング(エレクトロニクス) 音楽家、レコードプロデューサー。ノルウェー南部の町クリスチャンサンで育ち、同郷の音楽家エリック・オノレと音楽活動を始める。これまでにモートン・ハルケット、デヴィッド・シルヴィアン、ニルス・ベッター・モルヴェルらと共にアルバムを発表。2005 年からはライブミックスをコンセプトとした即興音楽祭「ブント」を立ち上げ、現代ノルウェーで最も革新的な音楽家の1人として活躍している。	
--	---

ニルス・ベッター・モルヴェル(トランペット) ノルウェー出身のジャズトランペッター、作曲家、レコードプロデューサー。1997 年に ECM から発表したアルバム『クメール』は、異色のサンプリングを多用したテクノやアンビエント色の濃いサウンドで注目を集めた。2001 年のレーベル移籍後も、ジャズと電子音楽を融合させたフューチャー・ジャズのパイオニアとして作品を発表し続けている。16 年には最新アルバム『BUOYANCY』をリリース。	 Photo：Peder Otto Dybvik
---	--

小林沙羅(ソプラノ) 東京藝術大学卒業。同大学院修士課程修了。2010 年よりウィーンとローマにて研鑽を積む。国内外のオーケストラとの共演を重ねるほか、オペラやオペレッタでは持ち前の演技力とダンスの能力を活かし多くの舞台に出演。15 年には野田秀樹演出 / 井上道義指揮『フィガロの結婚』のスザンナ役にオーディションで抜擢され、その演技力と歌唱で観客を魅了した。16 年にはセカンドアルバム『この世でいちばん優しい歌』をリリース。	 ©Nippon Columbia
---	---

スペシャル・コンサート プログラム

1	デヴィッド・シルヴィアン & 藤倉大 Five Lines, The Last Days of December	ライブ版世界初演	5	ブルーノ・マデルナ ひとつの衛星のためのセレナータ	
---	--	-----------------	---	---	--

この作品は僕とデヴィッド・シルヴィアンが長年かけて、毎日メールしあい、ニューヨークで録音し、お互いにおそらく尊敬しながらも時には大喧嘩もして(笑)、やっとできた共同作曲作品の2曲。僕は日本で中学生をしている時からデヴィッド・シルヴィアンのファンだ。ずっと一回で良いから一緒に仕事をしてみたいな、と夢みていたら、一回お会いすることができた。そこで僕の音楽を彼が聴き、時には 1 日 4 通くらいメールのやりとりをほぼ毎日するほど仲良くなった。楽譜を読まないデヴィッドにどうやって今作っているこの共同作曲の作品の自分の部分を彼に聞かせるか、をとっても悩んだのを思い出す。ニューヨークに行って録音し、歌の部分はデヴィッドが作曲したのだが僕が思い描いていたのとは全く違う、でもデヴィッドの方が（当たり前ながら）数倍良い！デヴィッドは昔から自分の作品がヴォーカリストとしての作品ではなく、クラシックの作品みたいに、自分が舞台に立たずに作曲家として作品が演奏されたい、と常に言っていたのを思い出した。それで、今回は音域から声質から全くデヴィッドと違う小林沙羅さんの声で歌ってもらいます（デヴィッドはこの事をとても喜んでいたし、今回の為にこの2曲を楽譜にしたのだが、それを見て「美しい」と読まない楽譜を見ながら言っていた。楽譜起こしも大変だったけど僕もそう言ってもらえて嬉しかった）。作曲家としてのデヴィッド・シルヴィアンを聞いてみてください。

2	坂本龍一 新作	ライブ版世界初演	7	坂本龍一(藤倉大編曲) thatness and there ness	アンサンブル版世界初演
---	-----------------------	-----------------	---	---	--------------------

坂本龍一さんはもうここ何年も仲良くさせていただいて、結構定期的にメールでお話する事もあります。おそらく坂本龍一さんの作品はご本人曰く「自分より、よく知っている」というほど僕はかなり詳しく昔から（中学生の時から）聴いて知っています。今回もこのボンクリ・フェスを考えていた時にたまたま坂本さんのこの作品の楽譜について僕に質問されたのでこの作品の存在を僕は知る事ができました。結構歳下の僕なんかに質問をさらとする所が坂本さんのすごい所。楽譜を見るとすごく緻密に書かれた現代音楽作品。これがコンサートホールでどう響くか、すごく楽しみ。

3	武満徹 『秋庭歌一具』より 第4曲「秋庭歌」		8	藤倉大 フルート協奏曲	アンサンブル版日本初演
---	---	--	---	---------------------------	--------------------

この作品は僕にとって武満作品で一番好きな曲です。海外 CD リリースでは、ずっとこの4曲目だけがリリースされていた。これが最初に書かれたメインの作品だと思う。よってその思い入れのあるこの曲を今回入れました。

4	「秋庭歌」ライブ・リミックス				
このライブリミックス、というのは僕が最初に知ったのはヤン・バングが主催するノルウェーの即興音楽祭「ブント」でなぜか僕の個展をしてもらった時だ。おそらく僕の作品のみ「譜面台」が必要なコンサートだったのだろう。その時は僕の娘が生まれる時だったので僕は聴きに行けず。その数年後もう一回今回は僕を演奏家(キーボード)として呼んでもらい、その時にこのライブリミックスを初めて体験+演奏した。全てがライブなので、この演奏の前に演奏された素材（今回は「秋庭歌」）が変調されるだけではなく、僕が今弾いた音が延長上に鳴っていたり、など。こういう音楽の作り方もあるのか！と新鮮だった。それを今回ここでできたらな、と思いました。					

この作品は僕の大親友フルート奏者クレア・チェイスに書いた協奏曲。名古屋フィルで僕のコンポーザー・イン・レジデンスが決まった時に真っ先にクレアに協奏曲書かせてください、と名古屋フィルにお願いして実現した。オーケストラ版とアンサンブル版と2つあり、アンサンブル版が日本で演奏されるのはこれが初めて。初演は 2015 年 12 月だったにも関わらずもう5回くらいいろんな所で再演されている。クレアはアメリカのアンサンブル ICE のメンバーであり、その ICE と録音したのがこのコンサートの冒頭のデヴィッド・シルヴィアンとの共同制作作品。ヤン・バングとはシルヴィアンとのリミックスで僕は一緒に参加していて、大友さんとは間接的にリミックスで関わっている。ノマドは僕に日本で初めて委嘱されたのを演奏してくださった楽団（のちにその作品 Abandoned Time は ICE によって録音されリリース）。こうして演奏家達の面でも直接的、間接的に繋がっているこの曲目。是非お楽しみに！					
--	--	--	--	--	--

出演：
・アンサンブル・ノマド(指揮：佐藤紀雄)[1, 2, 5～8]
・伶楽舎[3, 5]
・クレア・チェイス(フルート)[8]
・ヤン・バング(エレクトロニクス)[4]
・ニルス・ベッター・モルヴェル(トランペット)[4]
・小林沙羅(ソプラノ)[1]
・大友良英(ターンテーブル)[6]
・藤倉大(エレクトロニクス)[4]

サウンドデザイン：永見竜生[Nagie]

リコメンデーション

まだおもしろい音があったのだ、といううれしい驚きをもって藤倉大さんの音楽を聴いています。

藤倉大と私がいくつかのプロジェクトで共同作業をしたと思ったのは、われわれの異なる音楽的バックグラウンドがどのように斬新な形でクロスオーバーするかを見てみたいという好奇心からではなく、お互いの作品に対する純粋な愛と尊敬からであった。そして、それ以来、友情がはぐくまれている。私たちはどちらも、これらの作品が生で演奏されるとは思ってもいなかったし、このような形で取り上げられるとは想像だになかった。この作品の初演が“ボーン・クリエイティヴ”フェスティバルで行われることに興奮と満足を感じている。

デヴィッド・シルヴィアン

解説：藤倉大